

12.09.16~17 北岳山行報告書

M2 加藤 浩介

(1)メンバー

M2 荒川・加藤

(2)コースタイム

9/16(日) 甲府 04:00~06:10 広河原 06:30~白根御池小屋への分岐 06:50~08:30 二俣 08:40~10:50 八本歯のコル 11:00~12:30 北岳 12:50~14:00 北岳山荘

9/17(月) 北岳山荘 06:10~07:10 八本歯のコル 07:15~08:30 二股 08:40~09:40 広河原

(3)総評

荒川君のガイドの元、初めて涸沢以外の山行に参加させて頂いた。本格的な稜線、はしご、テント泊など初めてのことを多く経験し、ようやく登山初心者としての一步を踏み出すきっかけとすることができた。初日は天気にも恵まれ、八本歯のコルまでは登っていると汗ばんでしまうほどであった。見上げる山頂はガスがかかっているため眺望が心配されたものの、登ってみれば国内第2位の頂きから、素晴らしい景色を堪能することが出来た。北岳山荘につく頃には疲労がたまり、翌日に回した間ノ岳も天候不順のため訪れることはできず、雨にふられながらの下山となった。北岳山荘では昭和大学の診療所の方々との出会いもあり、非常に充実した山行となった。

(4)一日目

広河原を出発し、しばらくは樹林帯が続いた。雲がほとんどない美しい快晴で、大樺沢の果ての稜線をくっきりと確認することが出来た。沢に並行する登山道は木々が日を遮って涼しげで、美しい自然を堪能できた。視界がひらけてから少し進むと二



俣に到着。沢には雪渓が残り、涸沢に到着する直前の道のりを彷彿とさせた。

二俣を過ぎると沢を蛇行しつつ上行する道のりが続いた。日を遮るものがなくなり、Tシャツ一枚でも汗ばんでしまうような陽気の中での上り坂で、すぐに息

も上がってきた。沢を登り切ったところで一度休憩を取り、今度ははしご場へと進む。大きな荷物を背負い絶景の中での手を使いながらの上りは、初めての私には少しひやっとさせるものであった。途中ナナカマドの紅葉も始まりかけていて綺麗だった。八本歯のコルにつくと、ガスが出ていて今度は風も吹いて寒いくらいだった。ここで着込んで食料を補給し、はしごと岩場が繰り返される稜線を進み、ようやく北岳の吊尾根に到着。八本歯のコルの時点では天気が不安だったが、吊尾根の向こう側に、遠く仙丈ヶ岳も見渡せた。



12 時すぎにようやく登頂。三連休の中日ということもあって賑わっていた。一部雲はかかっていたものの、東西どちらの側も非常にくっきりと眺望を楽しむことが出来た。



そのまま吊尾根を南に進んで北岳山荘へ到着。ガスがだいぶ出てきて、かなり疲労困憊していたので間ノ岳は明日に回すことにして、そのまま幕営。山荘をウロウロしていると、荒川君が昭和大学の診療所があって開所中なのを見つけたので、少し休んでからお邪魔させて頂いた。OG で産婦人科の田川先生を始め、北岳診療部の学生の方々から、昭和

大学の北岳診療部のことなど、いろいろなお話を伺った。昭和大学にはなんと白馬と北岳と 2 つ診療部があり、それぞれ 50 人以上の規模で運営されていると聞いて驚いた。下山後に田川先生からご連絡があり、是非鉄門山岳部の山行に参加したいとおっしゃっていただいた。標高 2,900m での新たな出会い、今回の山行をより思い出深いものにしてくれた。

山荘についてから悪かった天候も夜には一時的に改善した。遠く甲府の街並みが見られたことで、かえって今自分たちが平地から遠く離れた大自然の中にいる感動が際立ったのが不思議だった。

(2)二日目



前日の夜からテントを吹き飛ばすかのごとく風が吹き荒れ、朝になっても天気は全く改善せず、間ノ岳には寄らずに、八本歯のコル経由でまっすぐ降りることにした。雨は二俣あたりまでしっかりと振り続け、岩場やはしごは滑りやすく、慎重に進む下り道となったが、なんとか無事に下山した。山岳部員とはいえ、今回の山行はほぼすべてを荒川君に任せっきりとなり大変恐縮だったが、おかげで本当にいい思い出を作ることが出来た。これからまたいろんな山に登ってみたいと思った。

